

研究部会 活動報告書（2024年度）

研究部会の名称

リサイクルシステム・技術研究部会

研究部会の活動目的

新規の資源採掘を抑制し既存の資源を最大限に利用する資源循環は世界の潮流であり、日本やEUでは今後の産業政策の中心として捉えられている。本研究部会では、資源循環の実現に必要な技術・政策・制度等々について講演会や勉強会等を開催して最新の情報を共有すると共に、会員相互の連携を強めることを活動の目標としている。また、活動報告として書籍の出版を目指す。

研究部会の設置期間 年のうち、今年度は 年目

当該年度の活動実績

活動実績を冊子体などにまとめている場合は、それを提出してください。
そうでない場合は、以下に活動実績を記述してください。

- ① 年次研究発表会における企画セッション設定の有無 （ 有 無 ） ←どちらかに○
（「有」の場合 ⇒ 企画セッション名とその概要と総括）

企画セッション名：

EUのELV規則案に対する日本の対応

セッションの概要と総括：

ELV規則案では、2030年までに新車生産に必要なプラスチックの25%以上を再生プラスチックとし、さらにその25%が廃車由来であることが求められている。そこで、4人の専門家をお招きし、EUにおける法案の行方と、成立した場合における日本の自動車会社および日本への影響について、専門家からのミニ講演とパネルディスカッションを行った。

1. CEにおけるELV法案の役割

地球環境戦略研究機関(IGES) 粟生木千佳 氏

2. ELV法案の及ぼす影響

東京大学 村上 進亮先生

3. 自工会の樹脂リサイクルへの対応

一般社団法人日本自動車工業会 嶋村 高士 氏

4. いそのが取り組む自動車向けsustainable-plastics

いその株式会社 高野 敦司 氏

② 研究部会独自の活動について

定例研究会やシンポジウムの開催の有無やその概要、出版活動などについて（必要に応じて、自由書式で別紙を添付してください）。

研究部会としての独自活動の計画・概要

4月26日には、「衣料・ファッション製品のリサイクル」のテーマで勉強会を開催した。

また、サーキュラーエコノミーの書籍発行に向け、有志での執筆に着手している。